(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 6 年 8 月 8 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3471503742		
法人名	有限会社青葉メディカ		
事業所名	グループホームはるうらら		
所在地	広島県福山市青葉台1丁目10番6号		
自己評価作成日	令和6年7月10日	評価結果市町受理日	令和6年10月1日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3471503742-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和6年7月29日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>ワンフロアの為職員と入居者の距離が近く、入居者に寄り添った手厚い介護が出来る。家庭的な雰囲気。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>理念「一人ひとり、その人らしい、尊厳ある姿を大切に」を掲げ、利用者本位の気持ちを職員心得1～7項目で提示し、日々の介護の中の気づきや提案を全体ミーティングで話し合い利用者主体の支援を実践している。制限がある中での面会や事業所内で出来る行事をレクリエーション担当者が中心となり開催し、利用者の笑顔が見られる写真を掲載した「グループホームはるうららだより」を家族等に情報発信している。協力医療機関が近隣にあり、緊急時や急変時には連携を図り、日頃から訪問看護師による健康管理を行っている。看取りの経験があり、事業所で出来る事、出来ない事を見極め、利用者、家族にとって最善のターミナルケアを実践し、職員が次に活かせる知識を深めている。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所の理念は職員が見えるよう共用のリビングに掲示している。ミーティング時に職員で理念を確認している。	理念を目に入りやすいリビング壁面に掲示し、「一人ひとりの、その人らしい、尊厳ある姿を大切に」を職員が習得し実践している。毎日の業務の中での気づきや意見を毎月のミーティングを通じて話し合いを行い利用者に合った介助方法や関わり方の確認を行い取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナの為、近隣の子供園の訪問はなかった。地域の清掃活動には参加している。	町内会に加入し地域の清掃活動に参加している。新型コロナウイルス感染症予防対策で地域との交流が困難であるが、地域の盆踊りなど地域行事の参加や災害時の協力体制の構築に努め、気軽に訪問できる事業所作りを目指している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	施設入居を検討中のご家族等の相談支援を行っている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	グループホームから報告を行い、ご家族や地域の方や地域包括支援センター・市の職員からご意見やご要望を伺い、出来るだけお応え出来るように努めている。	併設するデイサービスと合同での開催や新型コロナウイルス感染症予防対策の為、職員のみで開催をしている。合同での開催は民生委員、地域包括支援センターの参加があり、事業所の活動・状況報告をしている。地域包括支援センター職員から最近のサロンの様子などの情報提供がある。	運営推進会議に利用者家族、地域住民、多職種の方などに案内や声掛けを行う事で多数の参加者が得られ、事業所の情報発信や意見交換の場になるよう期待します。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議に出席して頂いている。また不明な点がある時や対応困難な際には相談している。	市担当課に介護保険申請時の手続きや報告をしている。不明な点や困難な時など電話や直接出向き相談を行い、助言や提案が得られるなど、協力関係の構築に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束に関する研修を定期的に行っている。ミーティングで状況を確認し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束廃止委員会や虐待・拘束等を防止する為に定期的に事例をもとに研修をしている。会議で「身体拘束に関するチェック表」を活用し自己の振り返りを行っている。スピーチロックは利用者にあった声かけの工夫や不適切ケアは注意、指導を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>定期的に研修を行い、事業所内で虐待のないように注意を払い防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>事業所内で研修を行っている。活用には至っていない。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入退去時を含め改定等の際は、利用者家族に直接その都度説明を行い、不安や疑問点がないか伺っている。理解・納得が得られるように十分説明している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ご利用者からは普段からご意向を伺い、ご家族からは来所時や運営推進会議でご意見ご要望を伺っている。運営に反映出来るように検討するようにしている。</p>	<p>日頃のケアの中でコミュニケーションや会話の中から汲み取り、家族からは面会時や電話で、又「グループホームはるうららだより」にレクリエーションの様子を写真で伝える事で、意見や要望を傾聴している。職員の名前が分からないとの意見があり、写真を掲示した事例がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	普段から職員の意見や提案を聞き、またミーティングで、意見や提案を出し合い職員全体で検討し改善できる所は改善すよう取り組んでいる。	日頃の業務や毎月のミーティングで意見や提案を話し合い、改善案など申し送りノートに記録し情報共有を行い、資質の向上や職場作りに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	施設長への報告や相談などにより、就業環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	主に管理者が個々の職員のケアの実際と力量を把握して研修を受ける機会を確保し、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	福山市や介護福祉士と歩む会が開催した研修に参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前の面談前からコミュニケーションをとり、不安な事や要望など何うようにしている。言葉で表現など非言語でのコミュニケーションから気持ちをくみとっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>入居前の面談時に不安な事や要望を聞きながらしっかりとコミュニケーションを取り、信頼して頂けるよう関係作りに努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>本人家族からしっかり話を伺い、ニーズを引き出し、他のサービス利用が必要であれば提案し対応するように努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>本人の話を傾聴して、本人の尊厳を保つケアを行うように心がけている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>本人とご家族の絆が保たれるように、共に本人を支えていけるようにご家族とのコミュニケーションを大事にしている。ご家族と良い関係が築けるようしっかり話をするようにしている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>コロナが減ったとはいえ無くなったわけではない為面会を遠慮して頂いた。Zoomや電話を進めるが断られる事が多かった。</p>	<p>外出自粛や面会制限がある中で、窓越しではあるが顔が見える面会や「グループホームはるうららだより」を通じて笑顔の写真の便りを送付し、関係が途切れないよう支援している。訪問美容の来訪で馴染みの関係が築けている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士が交流出来るようレクや行事を行い、職員が間に入り楽しい時間を共有出来るように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用終了後でもご家族から相談事などがあれば応じて支援に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の話を傾聴して、希望、意向を伺い把握するように努めている。認知症の進行により意思疎通が困難な方は表情や普段の様子から思いを汲み取るように努めている。	利用者担当制を設けず、職員が利用者一人ひとりに関わる事で何気ない仕草や会話の中から意向を把握している。又表出の難しい利用者は表情や思い出されたようにふっと話された言葉から思いを汲み取り介護日誌に記録し、家族にも伝え情報共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人からの聴き取りの他、ご家族や入居前の担当ケアマネジャーや施設の方からも情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎朝バイタルチェックをして顔色など変わりが無いか確認している。夜勤者からの申し送りを毎朝行っている。日常も見守り様子に変化があり、状態によっては医療職に報告、相談している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>ご家族からのご要望やご意向を伺い介護計画に反映している。またミーティングで課題や対応を話し合っている。</p>	<p>利用者、家族の意見や要望を踏まえ、介護日誌や申し送りノートの情報を参考にミーティングで話し合い、職員の意見や提案、医療関係者の意見が反映した介護計画を作成している。状況に変化があれば、その都度見直し現状に即した介護計画を作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>介護日誌に身体状況や様子を記入し日勤・夜勤帯で申し送りをして情報を共有している。またミーティングの中で職員で話し合い介護計画の見直しに活かすようにしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>その時々生まれるニーズに対応できるよう、多職種と連携して柔軟な支援やサービスが出来るように取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>職員が地域の行事などに参加し地域との関係づくりに努めている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>本人及び家族等の希望を伺い、納得が得られた医療機関を受診出来るように努めている。かかりつけ医とは情報の共有に努め、適切な受診や看護が受けられるように支援している。</p>	<p>契約時、かかりつけ医の説明を十分行い希望を聞き、確認の上で協力医療機関がかかりつけ医に移行となる。月2回の訪問診療、訪問看護の週1回の来訪で健康管理を行い医療連携体制も整えている。他科受診は家族に連絡し同行依頼と必要時は訪問歯科も可能である。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>介護職はかかりつけ医の看護職や訪問看護師などに情報や気づきを伝えて相談し、適切な受診や看護が受けられるように支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入退院時、また入院中に変化があった時など、病院関係者との情報交換や相談に努めている。直接病院に伺える場合は伺い病院関係者との関係づくりを行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>重度化した場合や終末期のあり方について入居時に本人ご家族のご意向を伺い、その後定期的にご意向を伺うようにしている。</p>	<p>契約時、終末期・看取りについて事業所で出来る事、出来ない事を利用者、家族に説明確認をしている。その後も3ヶ月毎に意向の確認をしている。看取り時、利用者の思いを受け止め寄り添い穏やかに過ごせるよう医師、看護師、職員が情報共有しチームで支援に取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>急変時や事故発生時の対応について所内で研修を定期的に行っている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>火災避難訓練は定期的に行っている。町内会と話が来ている。</p>	<p>年3回昼夜を想定して併設するデイサービスと合同で避難訓練をしている。全職員が身につける為に新人職員が担当者となり、避難場所への誘導や水消火器を使用した消火訓練、DVD鑑賞をしての訓練をしている。非常時に備えて備蓄確保や地域の方との協力体制も築いている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員は入居者一人ひとりの人格を尊重し、気持ちに寄り添うよう援助し、誇りやプライバシーをそこねない言葉かけや対応をしている。	日常生活をする上で利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。声掛けや言葉掛けに配慮し、声の大きさやトーンにも気を配り、利用者一人ひとりに合った対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員は入居者としつかりコミュニケーションをとり信頼関係を構築し、本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者がその人らしく暮らせるように職員は入居者一人ひとりの希望をうかがい体調を把握して個々のペースで過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	3ヵ月に一度訪問理美容の機会を設けている。ご家族と美容室を利用されている入居者もおられる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	レクリエーション時には利用者と職員と一緒に準備することもある。入居者の希望をうかがいレクリエーションで提供させていただくこともある。毎月1日は赤飯、15日は炊き込みご飯を提供させていただいている。	3食湯せんで温めた副菜を配膳し、食べやすい食事形態で提供している。おやつレクリエーションでプリンやカレー作りなど利用者が出来る事を職員と一緒にを行い、食事が楽しみに繋がる支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの状態や力、習慣に食事形態を合わせて提供している。食事摂取量、水分量が足りない時は申し送りや記録で職員は把握して摂取量が確保できるよう声かけや介助など支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、職員は口腔ケア介助を行っている。義歯は毎晩職員が洗浄剤につけている。必要に応じて訪問歯科を受けられるようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	トイレの訴えがあればその都度トイレ誘導している。また一人ひとりの排泄のリズムをつかみ、声かけや誘導を行っている。立位や座位が難しい方は職員二人対応で介助している。	排泄表を確認し、排泄リズムを把握し声掛け誘導を行い、トイレで座位姿勢での排泄支援をしている。立位、座位が困難な利用者は2人介助で排泄支援に取り組んでいる。便秘予防にラジオ体操や水分不足にならないよう10時・16時・起床時に飲みやすい飲料を提供している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分をしっかりとっていただくよう飲食物の種類を多く用意している。排便のコントロールについては主治医に相談している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	必要に応じて入浴介助を行い、体調にも配慮をして入浴日を調整している。一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しんでいただくという対応はできていない。	週2回曜日を決め入浴支援をしている。体調や拒否があれば無理強いする事のないよう声掛けの工夫や曜日を変えるなど、柔軟に対応している。入浴後は保湿剤塗布や自分で選んだ衣類や職員と一緒に選んだ衣類に着換えるなど、支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの体調やペースに合わせて休息していただいたり、夜間眠りが浅い方はなるべく日中は起きて過ごしていただき夜間にぐっすり寝られるように支援している。室内の照明や温度など環境にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	主治医や薬剤師から情報を得たり、疑問点があればそのつど確認している。服薬後に変化があれば主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	レクリエーションや行事を計画して参加していただけるよう支援している。今まで家庭でされていた要領で自然と洗濯畳みをされる方もおられる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	今はほぼ外出支援が出来ていない。青葉台クリニックや他の病院へ受診するぐらいしか出来ていない。	外出が困難な中で近所の散歩や1階デイサービスが休みの日は玄関から外に出て日向ぼっこや外気浴を楽しんでいる。外出自粛で困難であったがミーティングなどで話し合い、家族にも協力を得ながら、少しずつ出来る所から外出支援を検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金に関する認識がなかったり、管理ができなかったりされるため、お金を所持されておられない。希望がある物はご家族に伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話や手紙を希望される方がおられないため今はそのような支援はしていないが、希望があったり必要があれば検討したい。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	職員は音、光、色、広さ、温度などに配慮し、入居者が安心して落ち着いて過ごせるように支援している。季節を感じられるよう壁面飾りをシーズンごとに変えている。	感染症予防対策として換気、空調管理などしている。壁面に季節を感じる飾り物を掲示している。利用者同士の相性を考慮したテーブル・椅子の配置をしている。昼食後は、一旦居室で休憩をし、テレビの番組に合わせるようにフロアの椅子に座ってテレビ鑑賞をするなど憩いの場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ホールでの席は入居者の気持ちや体調など配慮しながら居心地が良い席で過ごされるよう職員が工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者が使い慣れたものや好みのものを持って来ていただくなどご家族と相談しながら、居心地良く過ごしていただけるよう支援している。	居室は花の名前で表示している。エアコン、ベッド、クローゼットは備え付けである。自宅で使い慣れた茶碗、汁椀や馴染みの品物を家族と相談し持参している。車いす移動や歩行に支障のないよう配置している。思い思いの品物を飾り落ち着いて過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	各居室は花のマークにしてわかりやすいようにしてる。カレンダーや時計は見える位置に設置している。できることは自分でしていただけるよう安全面に配慮して支援している。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	☐ ①ほぼ毎日のように ☐ ②数日に1回程度 ☐ ③たまに ☐ ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	☐ ①大いに増えている ☐ ②少しずつ増えている ☐ ③あまり増えていない ☐ ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	☐ ①ほぼ全ての職員が ☐ ②職員の3分の2くらいが ☐ ③職員の3分の1くらいが ☐ ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	☐ ①ほぼ全ての利用者が ☐ ②利用者の3分の2くらいが ☐ ③利用者の3分の1くらいが ☐ ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	☐ ①ほぼ全ての家族等が ☐ ②家族等の3分の2くらいが ☐ ③家族等の3分の1くらいが ☐ ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームはるうらら

作成日 令和6年9月11日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4 ・ 5 ・ 65	運営推進会議の内容が家族に伝わっていない。	運営推進介護の内容の提示と、家族に運営内容が報告出来る。	運営推進会議にはご家族、地域、の方にも出席して頂けるようにする。入口に提示し内容を閲覧できるようにする。	12ヶ月
2	62	利用者は自由に戸外に行きたいところに行けていない。	その時の健康状態を考慮に柔軟に対応する。コロナが終息すればご家族とも相談しながら、利用者の希望を叶える。	御家族の希望を聞きながら前向きに検討して利用者の思いに答えていく。	12ヶ月
3	5	災害対策が不十分である。	地域の災害時の避難経路などの情報を、職員が周知し、緊急時に協力出来る体制を確立する。	地域の状態を把握して避難場所を確認する。持ち出し物を全職員周知する。	6ヶ月
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。